

令和4年度 白根源小学校学校評価 自己評価（前期）

自己評価 考察

全体を通して

すべての項目に対して、AかBの肯定的な意見であった。学校長の考える学校経営グラウンドデザインのもと、全教職員が一丸となって取り組んでいると言える。

学校教育目標、経営方針・学校運営（1～7）

◎すべての項目において、肯定的な意見が占めた。

- ・「学校目標や指導重点を意識した教育活動」における意識が高いと共に、「PDCA サイクルに基づいた改善の意欲」についても個々の職員の意欲が高い。より良い源小教育を意識し、歩みを止めない学校教育が行われているといえる。
- ・「校務分掌に基づいた組織的な学校運営」「他の職員との相互理解・信頼関係」においては、特に評価が高く、個々の職員がそれぞれに分掌の責任を負うと共に、相互に協力し合いながら一丸となって学校運営に努めているといえる。
- ・「専門性の向上」については、ややB評価が多い。働き方改革や職員自身のゆとりの時間の確保という意識が進む中で、自己研修や教材研究などに向かう時間が取りにくい面もあると感じる。行事の精選や事務処理の効率化を進める中で職員の研修時間の確保などが必要である。
- ・「危機管理意識の保持」についての意識は高いが、今後も自然災害・事故などの緊急事態、いじめ等の他、コロナ感染症対策や職員自身の綱紀保持に向けても徹底していく必要がある。
- ・「他の職員との共通理解・信頼関係」と共に「チーム源としての共通理解のもと指導」についての評価も高い。全職員がチーム源小としての意識をもち、互いに協働しながらの学校運営が行われていると感じる。今後も、様々な情報交換を通じた連携を進めたい。

学級経営、学習指導（8～11）

○いずれも肯定的な評価が多い。

- ・児童理解については、情報交換や必要に応じて行われるケース会議、または放課後などの職員間の会話などを通して個々の児童を共通理解し、学校全体で支援を進めていこうとする風土がある。それらがより良い学級経営につながっていると考える。
- ・学習指導に関しては、肯定的な意見が多い。各学年の実態に応じてきめ細かな指導に努力していることが分かる。また、学校体制の中で特に算数において担任と市単講師によるTT体制を仕組むことで個々の支援を厚くしていることも良い結果につながっていると考える。今後も児童一人一人の理解度に応じた学習支援を進めていくことが必要である。
- ・「関わり合って共に学び、高め合う授業づくり」については、B評価が多くなっている。コロナ感染症対策が依然続く中で、「主体的・対話的で深い学び」を目指した児童同士の協働的な授業を設定できにくい面も影響していると考えられる。今後も、コロナ禍でもできること（昨年度から始まったGIGAスクール構想による一人一台端末使用を有効的に使うことなど）を工夫し、児童同士の関わり合い・学び合いの授業づくりをすすめていきたい。㊦㊦
- ・家庭学習については、全校を対象に家庭学習習慣を年間3回設定し、家庭との連携を積極的に進めている。ただ、家庭によっては児童の教育に十分目を向けられない状況もあり、児童の学習習慣の確立は難しい。今後も粘り強く啓発していく必要がある。

児童理解、生徒指導（12～14）

○いずれも肯定的な評価が多い。

- ・児童の規範意識については、普段の様子からも、多くの児童が落ち着いた生活を送っている。ただ、「児童同士の相互協力」については、B評価が多く、改善の余地を感じる。ここ数年、コロナ感染症対策により、児童会

行事や児童の協働で進める活動が満足に行えない状況があり、その影響も大きいと感じる。このような状況においても、許容を模索し、児童同士が協力しあえる場面を作り出す工夫をしていきたい。

- ・本校の良さは、登校班、無言清掃、縦割り活動などを通して基本的習慣が高学年から低学年へつながっていることである。挨拶がなかなかできないなどの課題はあるが、課題を前向きに改善しつつ、これからも伝統としてこれらの意識をつなぎ、いじめ、不登校の未然防止につなげていきたい。
- ・情緒面・家庭的な面から課題を抱えた児童について、全職員で一人一人の理解に努めてきた。そのときに特別支援教育担当や特別支援コーディネーター、生徒指導担当がファシリテーター的な役割を負う場面も多い。今後も、外部機関との連携を深めるとともに、担当を中心に構造的なチームとしての動きを進めていくことが大切だと感じる。

保護者・地域連携（15）

○すべて肯定的な意見である。

- ・地域の方の学校への関心は高い。「源小の子どもを見守る会」といった組織の他にも、「にこにこサロン」のお年寄りによる学校の農作業へのお手伝い、地域の方による児童登校中の見守り、学校ボランティアの学習支援など、協力をいただく場面も多い。その他環境整備、防災等地域連携、保健指導への協力など、地域の方に学校活動を支えていただいている。今後もこのような連携を大切に地域と学校が一体となった学校教育を展開していきたい。
- ・学校からのお便りは充実しており、校長による学校だより、各担任による学年通信、各分掌からの保健・図書・給食だよりなど、機会を逃さない情報提供が家庭との共通理解を育てていると考える。学校だよりについては地域にも回覧し、学校と地域をつなぐ一手段となっている。

記述部分

	項目	記述内容
3	校務分掌に基づき、組織的に学校運営を進めることを心がけている。	・経験年数等により校務分掌の負担が大小あるが、お互いに気づいたら声を掛け合うようにしたい。
4	他の職員と、相互理解・信頼関係を深め、教育活動にあたっている。	・職員室が何でも話せる場所になっていてありがたい。
7	チーム源として、職員が共通理解のもと、指導に努めている。	・若い先生たちが手伝ってという気持ちよく動いてくれるのでありがたい。 ・年齢層がバラけているからこそ、互いに学ぶ姿勢を大切にしたい。若い先生にはベテランの先生方からたくさん学んでほしい。
12	児童の規範意識を育むための指導を行い、全校児童が相互に協力し合える風土づくりを心掛けている。	・まだ打てば響く子どもたちだからこそ、小さなことでも見逃さないで、ダメなことはダメと意思表示をしたい。
13	生指・特別支援体制を通じての組織的体制から、児童特性に応じた指導方法の工夫や改善に努めている。	・生徒指導・特別支援・支援員の先生方と情報交換や指導方法を相談させていただいて勉強になる。できればもっとそういった時間が欲しい。